

北海道医歌人会詠草

オニユリ

札幌

浜島

泉

オニユリへ水やりするに虹を見る 炎熱に涼色どりに妙
結び髪にファン作動してバスを待つ 高校生の暑さ対策
生涯の病を持ちて生くる人 いかで支へむ些かにとも
ガチ氷手渡し語る グランドの高校球児熱中予防
傾斜道越えゆく折によるめくは齡の証 ゆるりと歩む

秋の想い

釧路

兎玉

昌彦

あの人もこの人も急に齡とつて面影なしとは他人のことなり
次々とふえる書物に身を埋め時代の行く末占わんとす
大戦と天変地異に脅えつつ今日の平穩いつ果てむやも
敗色の日毎深まる大戦の記憶しきりと蘇るなり
「熟年の真実」という焼酎に畏友を想いてひとり酔う秋

酷暑

北広島

古屋雅三知

灼熱の人氣の失せし昼下がりがり白き陽のみが燦々と照る
涼求め木蔭に佇む老夫は長き舌垂れ微動だにせず
熱帯夜 毛布一枚肌を掛け 窓を開けれど眠られぬ日々
茄子・胡瓜 色も形も整わず規格外れの籠に溢れる
盆までで暑さの峠も越えなむと耐えたる日々は虚しく過ぎて…

新海苔

函館

水関

清

白川郷 斜度六十の屋根を葺く 萱渡しゆく足の踏ん張り
大きゆうなれと手渡されたる握り飯 祖母の掌 遥かなる味
固まりて霧流れゆく 秋の山 道に拾ひし空蟬ふたつ
大根と糠とを ぎゅうぎゅう押し込まれ 頑張り時の漬物の樽
撒き置きしフウセンカズラの実は熟れて 黒地にベージュ ハート柄の種

比較解剖学

士別

竹内

幹夫

脊索、鰓、鰓、鰓と火屋にあり 骨粗を見れば進化も哀しも
針土竜乳汁滲みた胸壁を 舐め回す子ら頭も多に
水槽の土に潜きし肺魚等の 繭想ひつつ背中をまるむ
卵一個割りて卵黄見る夜は 未受精卵の寂しき思ふ
人口に膾炙したりし殻鎖の語 ギリシヤ語なりとはつゆ知らざりし

鉄道小過

滝川

村田

英俊

掌で夕日を遮り居眠りす駅に迎えの車待てども
増殖の機会を窺うウイルスにグッタイミング「GOTOトラベル」
施錠せずトイレに入る癖ありて開けたる女性に二度見されたり
エゾシカに「列車は急に止まらない」を伝えんとし汽笛鳴らせり
この先は魔線 列車折り返すテールライトをヘッドライトに

ススキノ

江別

三宅

浩次

その昔薄の原が変わり果て今札幌の繁華街となる
若き日は友と語らい時忘れ薄明の朝迎えた日もあり
歳老いてススキノなどは卒業とうそぶく今は侘しくもある
馬鹿話飽くこともなく語り合い笑い合った友あまたあり
人生の半分以上を潰したかわがススキノの想い尽きなし